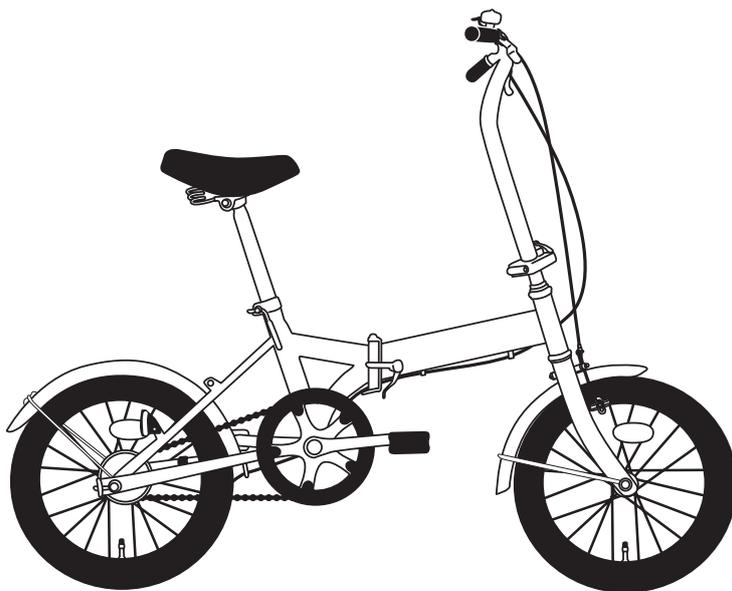


必ず保管してください



# 自転車取扱説明書

快適・安全にご利用いただくため、ご使用前に必ずお読みください



※イラストはイメージです

この度は当社製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。ご使用になる前に、この取扱説明書を必ずお読みください。当社では、常によりよい製品を目指し、仕様・デザイン・生産技術等、あらゆる面でさまざまな改良を積み重ねております。つきましては、この取扱説明書に記載されている仕様ならびに装備において、予告なく変更する場合があります。また、この取扱説明書は多機種対応版となっております。お買い上げの自転車にあてはまらないイメージや説明も含まれています。あらかじめご了承ください。

お求めいただきました自転車は当社の厳重な品質管理のもとに生産されていますが、輸送中の振動等で組み付け等にゆるみが生じる恐れがあります。ご使用にあたりましては、販売店や自転車店で整備点検を実施してください。整備点検を実施せずにご使用された場合、品質保証の対象から外れることがあります。保証規定については、P22 をご確認ください。

ご不明な点等ございましたら、お電話またはメールで問い合わせください。

自転車の型式名は、お届け時の  
梱装箱側に記載しております。

■よくあるご質問 ■webお問い合わせ  
フォーム



CF-1

カスタマーサービス (平日AM10:00~PM5:00)

電話番号:0120-515-380

メールアドレス:info@mimugo.co.jp

# 目次

はじめに	P 1	ライトの装備、点灯の確認	P12
自転車各部の名称	P 2	変速ギアの手扱いと調整	P13
警告事項	P 3～5	乗る前の点検	P14～15
注意事項	P 5～6	注油箇所	P16
折りたたみフレームの組立	P 7	サドル高調整の目安	P16
ハンドルポストの固定	P 8～9	交通ルールについて	P17～19
サドルの調整	P10	こんな時どうする?	P20
ペダルの取り付け	P10	防犯登録について	P20
カゴの取り付け	P11	点検・調整チェックリスト	P21
ブレーキの調整	P12	品質保証規定	P22～裏面
		保証書	裏面

## はじめに

- ご購入後の初期点検および定期点検は必ず実施してください。
- お子様をご使用になる場合は、保護者の方が必ずこの説明書をよく読んで、正しい乗り方や注意事項などについてご指導ください。
- この説明書には、お買い上げの自転車にあてはまらない説明も含まれています。
- 必ず防犯登録を行ってください。(詳細はP 20をご参照ください)
- 自治体によっては保険の加入が義務付けられています。自治体の指示に従ってください。
- 自転車が常に完全な状態であるようお心掛けください。整備や故障、修理などで部品を交換される場合はミムゴまたはお近くの自転車店にご相談ください。
- この自転車の取扱・点検・調整などについて不明な点はミムゴまたはお近くの自転車店にご相談ください。
- 読んだ後は大切に保管して必要に応じてご活用ください。(販売の証明となる伝票や、運送会社の送り状控えなども一緒に保管してください。)
- 自転車を他人に譲る場合は、取扱説明書と保証書を一緒にお渡しください。

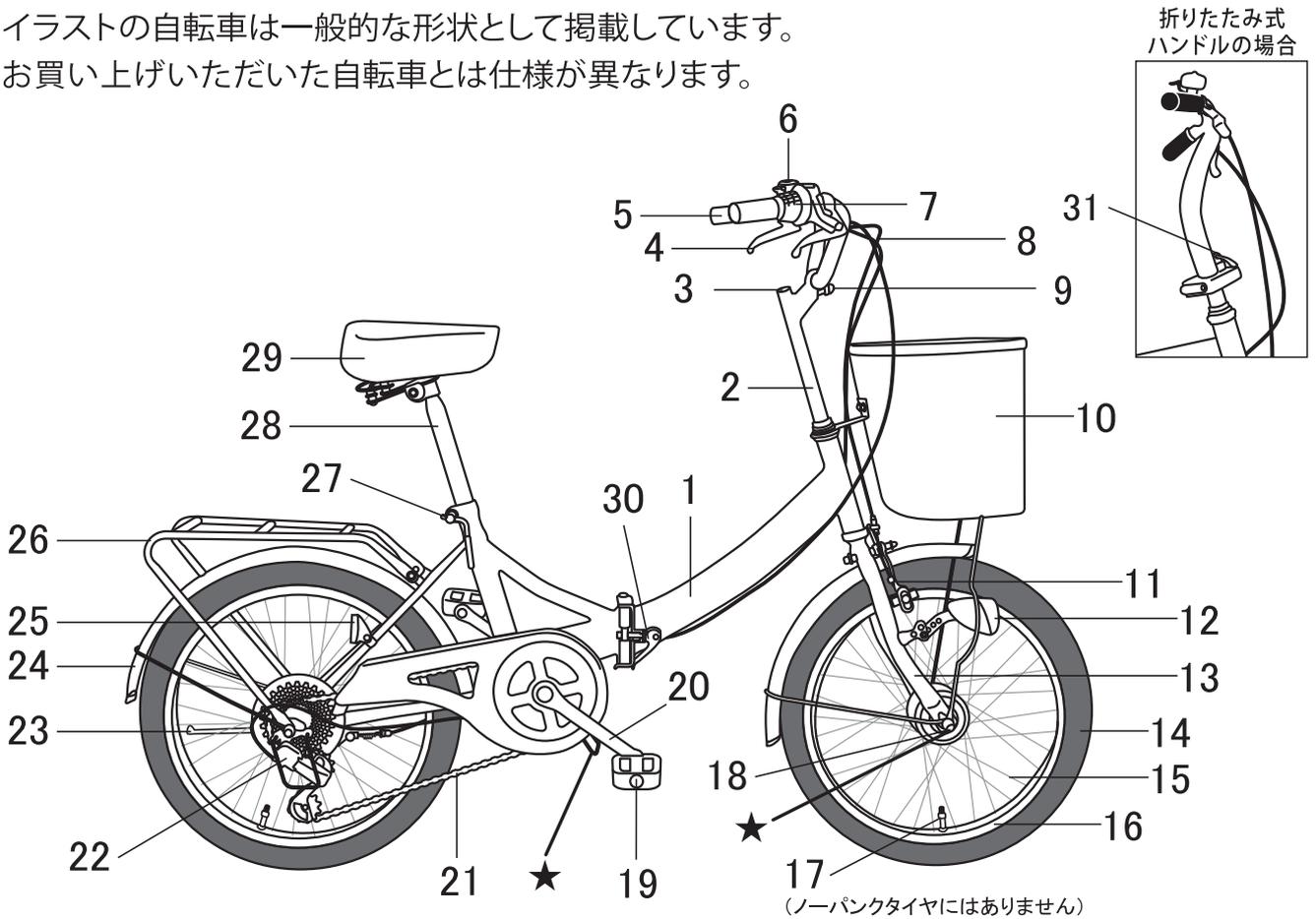
※工場出荷時にセッティングはされておりますが、「輸送時の振動」や「初期伸び」などで、お客様に調整していただくかなければならない場合がございます。あらかじめご了承ください。

**警告表示** 警告表示は危険の程度に応じて次の区分で表示しています。特に注意してください。

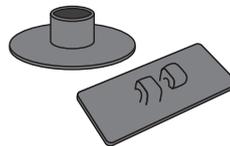
 <b>警告</b>	取扱を誤ったときに、使用者が死亡もしくは重傷を負う危険性が想定されるもの。
 <b>注意</b>	取扱を誤ったときに、使用者が傷害を負う危険が想定されるとき及び物的損害のみの発生が想定されるもの。
 <b>禁止</b>	危険の程度とは関係なく道路交通法で禁止されている行為。誤ると思わぬ事故・けがを負う危険が予知されるもの。
 <b>強制</b>	使用者に必ず実行していただきたいこと。

# 自転車各部の名称

※イラストの自転車は一般的な形状として掲載しています。  
お買い上げいただいた自転車とは仕様が異なります。



★の部分に右図のようなパーツがついている場合があります。これは輸送時の保護用パーツです。取り外して廃棄してください。



## 付属品

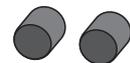
●六角レンチ



●簡易スパナ



●ハブ保護用キャップ



※前後のハブに取り付ける保護用キャップ

※付属の工具は組み立ての際にご使用ください。

- |                 |            |            |               |
|-----------------|------------|------------|---------------|
| 1. フレーム         | 10. カゴ     | 19. ペダル    | 27. サドルポスト固定部 |
| 2. ハンドルポスト      | 11. ブレーキ   | 20. クランク   | 28. サドルポスト    |
| 3. ハンドルポスト固定ボルト | 12. ライト    | 21. チェーン   | 29. サドル       |
| 4. ブレーキレバー      | 13. 前フォーク  | 22. 変速機    | 30. フレーム固定レバー |
| 5. グリップ(ニギリ部)   | 14. タイヤ    | 23. スタンド   | 31. ハンドル固定レバー |
| 6. ベル           | 15. スポーク   | 24. 泥除け    |               |
| 7. 変速レバー        | 16. リム     | 25. リフレクター |               |
| 8. ブレーキワイヤー     | 17. タイヤバルブ | 26. 荷台     |               |
| 9. ハンドルバー固定ボルト  | 18. ハブ     |            |               |





### ブレーキの制動面に注油しない

禁止 ブレーキが利かなくなり、衝突や転倒によるけがの恐れがあります。



### 坂道で駐停車をしない

禁止 坂道で駐停車をすると思わぬ事故が発生する恐れがあります。



強 制 平坦で安全な路面に駐停車してください。



### 走りながらライトの操作をしない

禁止 転倒しけがをする恐れがあります。



強 制 必ず停止してからライトの操作をしてください。



### 凹凸の激しいところを走らない

(歩道の段差や溝、階段など)

禁止 フレームや車輪の損傷、転倒によるけがの恐れがあります。

#### ●軌道敷では

原則として進入禁止です。もし入るときには、軌道敷のすき間にタイヤを挟まないよう十分注意してください。危ないと思ったら、降りて押して通ってください。

#### ●山路、ジャリ道では

ハンドルがとられ、ふらつきやすいうえ、スリップしたり、タイヤ、リムを損傷する恐れがあります。無理に乗らず、降りて押しましょう。



### 二人乗りやアクロバットのな乗り方はしない

禁止 立ちこぎ等、アクロバティックな乗り方は転倒や落車によるけがの恐れがあります。また、二人乗りは法律で禁止されており大変危険です。絶対にやめましょう。



### 視界が悪いときは無灯火で乗らない

強 制 ヘッドライトが標準装備されていない機種には、別売のヘッドライトを必ず装着してください。ライトが点かないときは押して歩いてください。

夜の無灯火での走行は交通違反です。夜間や霧、トンネル内など視界が悪いときは必ずヘッドライトを点灯してください。ヘッドライトの明かりは、路面状態を見るのみでなく、他の車両や歩行者からの視認をしやすい効果があります。走行中ライトの電球がきれたときには、新しいものと交換してご使用ください。電球は必ずライトの仕様にあわせてご使用ください。



### ハンドルの形を変えない

禁止 ハンドルを上向きや前向きにして乗ると、乗車姿勢が不自然なため走行が不安定となり、転倒しけがをする恐れがあります。



### リフレクターが汚れていたり破損したままの状態に乗らない

テールランプおよびリフレクターは、後続の車両から確認をするうえで大変重要です。汚れや損傷、故障の場合には直ちに修理をしてください。



### リムに著しい摩耗や傷があるときは乗らない

リムの破損または強度低下による転倒の危険があります。交換は販売店もしくはお近くの自転車専門店にご相談ください。



### 車輪の脱着やサドルの調整後、締め付けを確認しないまま乗らない

車輪やサドルが外れて転倒によるけがの恐れがあります。必ず乗る前に確認してください。

#### ●車輪について



強 制 自転車を持ち上げて車輪を上から強く叩き、車輪がずれたりガタついたりせず、前フォークやフレームにしっかり固定されていることを確認してください。

#### ●サドルについて



強 制 上下・左右および前後にガタつきや動きがないこと、フレームにまっすぐ取り付けられていることを確認してください。サドルの前後を持って上下・左右に力を加えたときに動きがなく、しっかりと固定されていることを確認してください。



### 視界が悪いときは乗らずに押して歩く

禁止 見通しが悪いと衝突や転倒の恐れがあります。乗らずに押すようにしましょう。



### 踏み台代わりなど走行以外の用途で使わない

禁止 転倒によるけがの恐れがあります。



## 警告事項



### 幼児を乗せない

禁止 幼児用座席の取り付けはできません。また、荷台を後付けすることもできません。



### 山岳・河川などでは絶対に使用しない

禁止 ハンドルやフレームなどが折損したり、ブレーキが利かなくなったりして、転倒によるけがをする恐れがあります。



### 運動機能が低下するものを飲んだときは乗らない

禁止 衝突や転倒によるけがの恐れがあります。疲れているときや薬を服用したときは乗らないでください。病気やケガをしている人は乗らないでください。体が不自由な人は十分ご注意ください。メガネを常用している人は必ずメガネをかけてください。



### ながら運転をしない

禁止 携帯電話・スマートフォン等を使用しながらの運転はしてはいけません。事故につながる恐れがあり大変危険です。罰則の対象になります。



### 酒気帯び運転をしない

禁止 飲酒をしたときは運転をしてはいけません。事故につながる恐れがあり大変危険です。罰則の対象になります。



### 異常があるときは乗らない

禁止 点検しないで異常があるまま走行すると、部品が破損したり転倒によるけがの恐れがあります。



強制

異常を発見したら自転車店にご相談ください。変形・ひび割れ等、異常のある部品は必ず交換してください。曲がりを直しての再使用は破損の原因になります。絶対にしないでください。前フォークは衝突したときに曲がることでショックを吸収し、乗員のケガを防止する役目をもっています。



強制

### 乗車するときはヘルメットを着用する

安全のために自転車用ヘルメットを着用してください。



強制

### 対人・対物賠償保険の加入

自転車による事故でも自転車は道路交通法上で軽車両と位置づけられているため、賠償額の計算方法は自動車による事故と変わりません。万一に備えて保険に加入しましょう。保険への加入を義務付けている自治体が増えています。ご使用先の自治体にご確認ください。



## 注意事項



### カーブではスピードを出さない

禁止 カーブでは見通しがききません。曲がりきれずに思わぬ事故をまねきます。必ず手前で十分な減速をしましょう。

### カーブではブレーキ操作に注意

横すべりをおこし転倒する危険があります。スピードを落として走りましょう。

#### ●坂道では

下り坂でのスピードの出しすぎは禁物。登り坂ではハンドルがふらつきやすいことを考慮し、無理に乗らず降りて押しましょう。



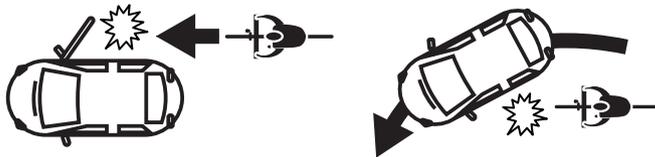
### カーブで曲がる側のペダルを下にしない

禁止 コーナリング中はペダルを止めてください。傾斜したとき、路上の凸部にペダルがあたることがあり危険です。カーブする側のペダルを上にするか、左右水平にしてください。



### 自動車の横を走り抜けるときはスピードを出さない

禁止 停止中の車に注意しましょう。車のドアが急に開き衝突する危険があります。スピードを落として通過しましょう。また、後方から接近する車にも注意しましょう。



### スタンドを完全に跳ね上げていない状態で乗らない

禁止 カーブのときにスタンドが地面と接触し転倒によるけがの恐れがあります。



強制

スタンドを上げるときは、必ずロックを解除してください。



# 注意事項



**走行中ブレーキワイヤーを引っ張ったり曲げたりしない**



**片側ブレーキはかけない**

バランスを崩して転倒し、けがをする恐れがあります。とくに前ブレーキだけをかけると、車輪がロックして自転車が前方に転倒する恐れがあり大変危険です。走行中は常にブレーキレバーをすぐ握れるようにして、ブレーキは前後ともかけてください。

右ブレーキレバー操作：前ブレーキが動作

左ブレーキレバー操作：後ブレーキが動作



**急ブレーキはかけない**

急ブレーキをかけるとスリップして転倒する恐れがあります。前方に注意して安全に走行してください。



**ギア変速は一度に2段以上しない**

必ず1段ずつ変速してください。一気に変速すると、チェーンが外れることがあります。転倒によるけがの恐れがありますので注意してください。



**すべりやすい所では乗らない**

雪道や凍結した道、工事用の鉄板の上などでは、スリップして転倒によるけがの恐れがあります。避けて通るか、押して歩いてください。

●**砂・小石** 舗装道路の砂や小石はスリップをまねきます。急ブレーキ、急旋回は厳禁です。

●**ドブ** 市街地走行では溝に注意。思わぬところでドブにはまる危険があります。

●**鉄板道路** 工事用の鉄板道路では、隙間やスリップに注意してください。とくに雨の日はスリップしやすく危険です。走り慣れない道を走るときは、いつもより注意が必要です。

●**雪** 雪の日には乗らずに、降りて押して歩いてください。また、冬は晴れた日でも日影の路面が凍っていたり、雪が残っていたりしますので注意が必要です。



**すべりやすい靴やハイヒールをはいて乗らない**

足がペダルから外れて転倒する恐れがあります。素足、ゲタ、サンダル、かかとの高い靴でのご乗車はおやめください。動きやすい履物をお選びください。安全確保のために走行中はヘルメットを必ず着用してください。なお、風などで飛ばないようにしっかりと留めてください。



**乗るときは巻き込まれやすい服装や荷物を避ける（長いスカートやマフラー、傘など）**

車輪やギアに巻き込んで転倒によるけがの恐れがあります。着物や裾の長いスカートなど、動きにくい服装はおやめください。肌を露出する服装では乗らないでください。転倒したり、ぶつかったりしたときにけがをする恐れがあります。



**雨・強風の時**

●**雨の時**

服装（雨具）を整える。傘を持つての片手運転は絶対におやめください。雨ガッパやレインコートを着るときは、裾が引っかからないように必ずセイフティバンド、輪ゴム、クリップなどで留めてください。また、雨の日はブレーキが利きにくく制動距離が長くなりスリップしやすいので、ゆっくり走りましょう。

●**強風の時**

ハンドルがふらつきやすく、安全に運転できません。降りて押して歩きましょう。



**お子様が乗られる場合は**

ブレーキレバーに指が届いているかどうか確認してください。また、正しいブレーキのかけ方ができるまで繰り返し教えてください。



**駐輪について**

駐輪するときは他の人の迷惑にならないように、決められた場所にとめましょう。自転車の放置は禁止です。自転車の放置は地域環境の悪化になります。自転車との接触事故等の危険性もあり大変危険です。自転車から離れるときは盗難防止のために必ずカギをかけましょう。

# 各部の取扱いと組立・調整



※配送直後のお願い

各部のねじなどにゆるみがないか確認してください。気温の変化に対応するため低めの空気圧となっております。空気を補充してからご使用ください。補充しないで乗車されるとパンクすることがあります。また、新しい自転車の場合はブレーキワイヤーが縮んでいる場合があります。左右のブレーキレバーを数回握って正常な状態に戻してからご使用ください。

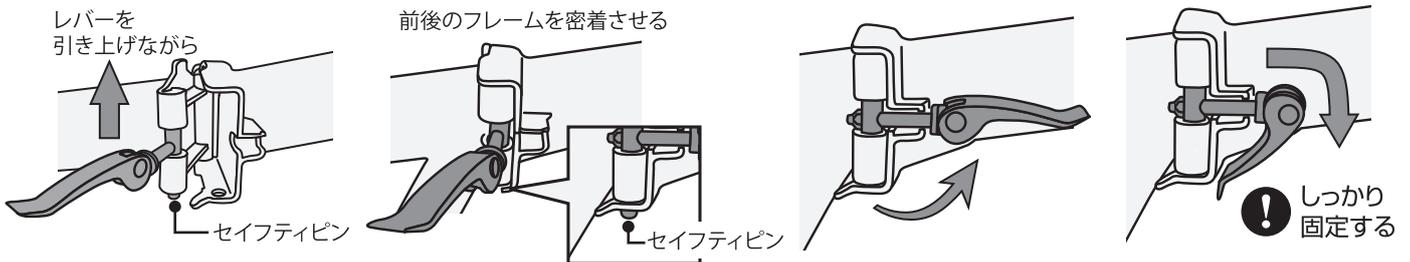
## 折りたたみフレームの組立

自転車本体を箱から出し、梱包材をすべて取り外してください。折りたたみ自転車は、フレームの組み立てから行ってください。



手や指をはさまないように十分に注意をしてください。

※イラストは代表モデルです。お買い求めいただいた自転車とは仕様が異なる場合があります。

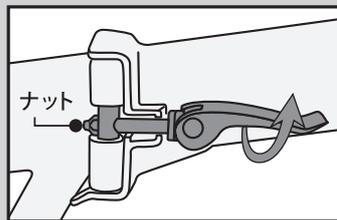


レバーを引き上げながら、前後のフレームを密着させます。正しくセット(密着)されるとセイフティピンが下がりロックがかかります。※手を挟まないように注意してください。

レバーを車体前方に移動させます。移動させたあと、レバーを下方向に押し倒して固定します。倒したあと、手・指にレバーのあとが残るくらいが適正です。最後にしっかり固定できていることを確認してください。

### 固定力の調整方法

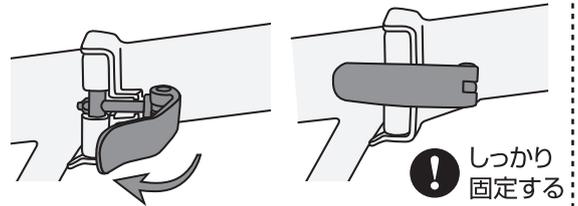
レバーを倒すのが固い、またはゆるい場合は、レバー先端のナットを工具等で固定した状態でレバーを回転させることで調整できます。



固定がゆるいと大変危険です。ナットを強く締めすぎても部品の破損につながる恐れがあります。ご自身で調整が難しいときは自転車店などにご相談ください。

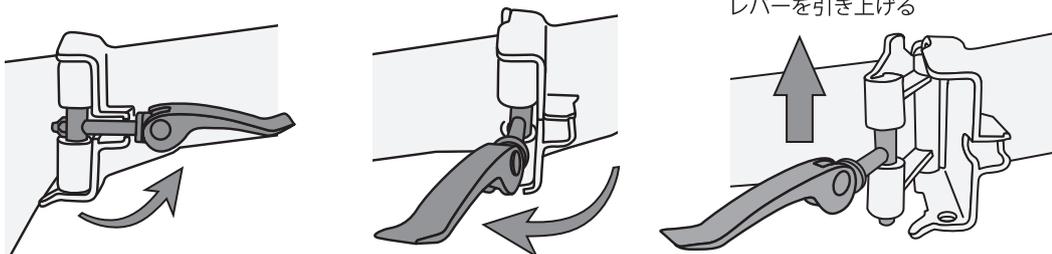
### 固定方向が横向きの場合

レバーが太くて下方向に倒せない場合は、横向きにレバーを倒して固定してください。



乗車するときは必ずレバーがしっかり固定されていることを毎回確認してください。固定がゆるいと、乗車中にフレームが開いて事故につながる恐れがあります。適正に組み立てができないときはお近くの自転車店などにご相談ください。走行中にガタつきを感じたときは、使用をやめて点検を行ってください。

## 折りたたみフレームの折りたたみ方



倒れているレバーを上方向に起こし上げます。

レバーを軸ごと車体後方に移動させます。

レバーを引上げながらフレームを折りたたみます。



手や指をはさまないように十分に注意をしてください。



必ずお読みになってから、ご使用ください

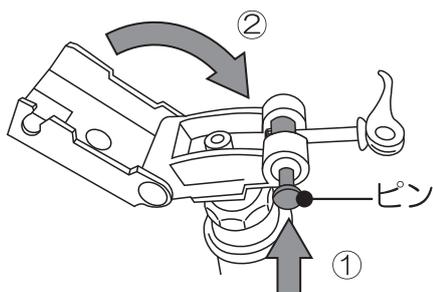
強制

## ハンドルポストの固定 (お持ちの自転車のハンドルタイプをご確認ください)

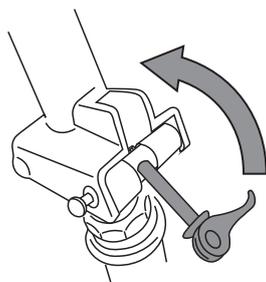
※ハンドルを組み立てる際、前ブレーキが前方に位置していること、ブレーキワイヤーがねじれていないかを確認してください。(ハンドルと前輪が反対向き、または一回転している場合は、正確に組み立てができません。)

### 折りたたみ式ハンドルの場合

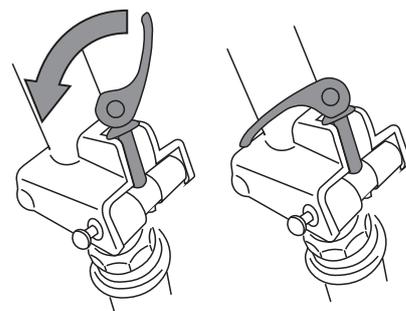
※折りたたみ式ハンドルは高さの調整ができません。



ピンを押しながらハンドルを立ち上げ上下を密着させます。正しくセット(密着)されるとロックがかかります。



レバーを起こし上げ、ハンドルに沿うように設置します。



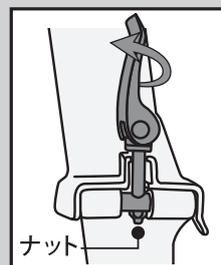
レバーをハンドルに沿うように押し倒して固定します。倒したあと、手・指にレバーのあとが残るくらいが適正です。

※レバーは、進行方向(前方)ではなく、後方側に押し倒してください。

### 固定力の調整方法

レバーを倒すのが固い、またはゆるい場合は、レバー先端のナットを工具等で固定した状態でレバーを回転させることで調整できます。

固定がゆるいと大変危険です。ナットを強く締めすぎても部品の破損につながる恐れがあります。ご自身で調整が難しいときは自転車店などにご相談ください。



ナット



折りたたみハンドルのジョイント部分は、フレーム(タイヤ)に対してななめの向きになります。ななめの状態が正常であり、フレーム(タイヤ)と角度を合わせることはできません。



※ハンドルの向き・ワイヤー類の取り回しに注意してください。ハンドル周辺のワイヤー類が車体やワイヤー同士等で絡み合わないよう注意してください。ワイヤー類が絡んでいるとハンドルの操作性・ブレーキの制動性に悪影響をあたえるため大変危険です。



注意

乗車するときは必ずレバーがしっかり固定されていることを毎回確認してください。固定がゆるいと、乗車中にハンドルが折れて事故につながる恐れがあります。組み立て時は、ワイヤーの取り回しに注意してください。ワイヤーがねじれていたり、ハンドルに巻きついている場合は乗車しないでください。走行中にガタつきを感じたときは、使用をやめて点検を行ってください。

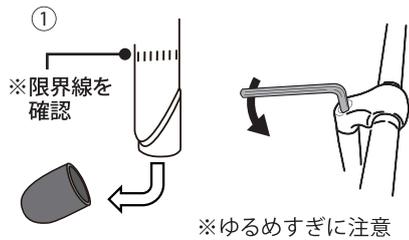
# 各部の取扱いと組立・調整

## ハンドルポストの固定 (お持ちの自転車のハンドルタイプをご確認ください)

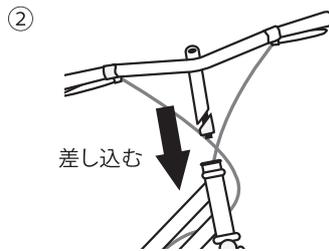
※ハンドルを組み立てる際、前ブレーキが前方に位置していること、ブレーキワイヤーがねじれていないかを確認してください。(ハンドルと前輪が反対向き、または一回転している場合は、正確に組立が行えません。)

### ポスト固定式の場合

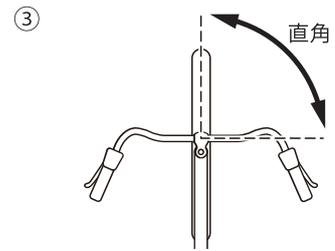
(六角レンチ使用)



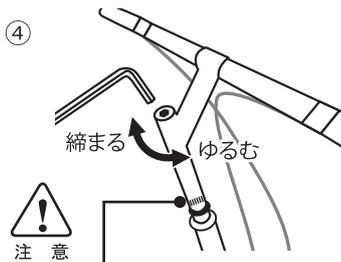
緩衝材やハンドルポスト先端のキャップを外します。キャップはハンドル上部のねじをゆるめて取り外してください。



ハンドルを本体に差し込みます。このとき、左右のワイヤーがきれいに交差するようにします。ワイヤーがねじれていないことを確認してください。



ハンドルの向きをタイヤと直角になるように調整します。

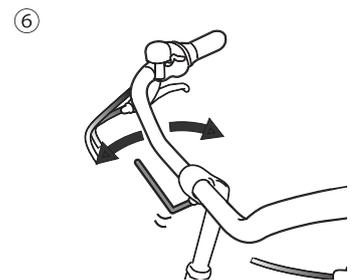


※限界線が見えているのは×

高さを調整して固定します。高さは限界線が隠れる位置で調整してください。固定したあとは、ガタつきがないか確認してください。



取扱説明書の袋の中にステムキャップが同梱されている場合は、ステム上部のねじ穴に装着します。※同梱していない機種もあります。



ハンドルバーの角度を調整する場合は、ステム下のねじをゆるめて調整してください。調整後はねじを締めなおして、確実に固定してください。※調整できない機種もあります。



ハンドルの高さを調整するときはねじのゆるめすぎに注意。ゆるめすぎるとウスが抜け落ちて固定することができなくなります。



各部の固定を適正に行わないで使用されると、事故につながる恐れがあります。点検をしていない自転車には乗車しないでください。ハンドルに“ガタつき”や“ふらつき”、その他異常を確認した場合は、直ちに使用をやめて自転車店などにご相談ください。



組み立て後は、自転車店などで必ず初期点検を行ってください。点検を怠った場合、品質保証を受けられない場合があります。



必ずお読みになってから、ご使用ください

強制

## サドルの調整

※サドル先端の差込部分に、黒い保護キャップがついている場合があります。保護キャップは外してからサドルを差し込んでください。

### ■ サドルの高さ

- サドルに腰をおろし、ペダルを一番下にして足を乗せたときに、ひざが軽く曲がる程度の高さが適正です。
- 背が小さい方や初心者の方は、両足が地面に確実に接するくらいの高さに調整してください。



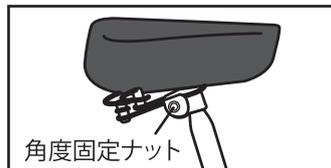
警告

限界線が隠れるまでしっかりと差し込んで、確実に固定してください。



### ■ サドルの角度調節

角度固定ナット(ボルト)をゆるめて、サドル上面が地面に対して水平になるように調整し、確実に固定してください。



強制

調整後は角度固定ナット(ボルト)をしっかりと締め付けて固定し、ゆるみがないことをご確認ください。

### ■ サドルの上げ下げ

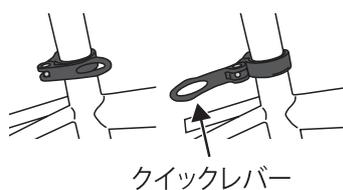
#### レバー式の場合



レバーを反時計回りに回すと、固定がゆるみます。固定する場合は、時計回りに締めつけます。

※レバー反対側の金具が、適正にはまっているか確認してください。ずれていると空回りして固定できません。

#### クイックレバー式の場合



クイックレバーを起こ上げてサドルの高さを調整します。高さを調整した後は、レバーをフレームに沿うように倒して固定します。倒したあと、手・指にレバーのあとが残るくらいが適正です。



レバーを倒すのが固すぎるもしくはゆるすぎる場合は、レバー反対側のねじを回して調整してください。

### ペダルの取り付け

※はじめから固定されている場合も増し締め(締め付け確認)を行ってください。



(簡易スパナ使用)



L 左足用

R 右足用

ペダルの軸の端面に「R」(右足用)、「L」(左足用)と刻印されていることを確認してください。左右を間違えて取り付けると、ねじ山が破損するので必ず確認してから取り付けをしてください。



クランクにペダルを差し込みます。はじめに手でねじ込めるところまで回し、最後に工具で強く締め付けてください。

※まっすぐねじ込んでください。ななめにねじ込むと、ねじ山が破損します。

(保証対象外となります)

※ペダル本体を回しても取り付けすることはできません。軸だけを回してください。



警告

ペダルをクランクに無理にねじ込まないでください。無理にねじ込むとクランクが破損し、走行中にペダルが脱落する危険があります。※誤った取り付けによる部品の破損は保証の対象外になります。



強制

はじめからペダルが取り付けられていても、締め付けを行ってください。ペダルの取り付けがゆるい場合、部品破損や事故の原因となります。確実に固定されていることを確認してください。定期的にペダルの取り付けにゆるみがないことを確認してください。取り付け後にバリが生じた場合は、必ず取り除いてください。



※左足用にはペダル軸にきざみがあります

# 各部の取扱いと組立・調整

## カゴの取り付け (一部機種のみ / カゴが付いていない、取り付けができない機種もあります)

### ● 付属品の確認

カゴ下側(底面)の部品	ねじ / 2本 	底板プレート / 1枚 	ワッシャー / 2枚 
カゴ側面(ハンドル側)の部品	ねじ / 2本 	ナット / 2個 	ワッシャー / 2枚 
	ねじ / 2本 	ナット / 2個 	ワッシャー / 4枚 

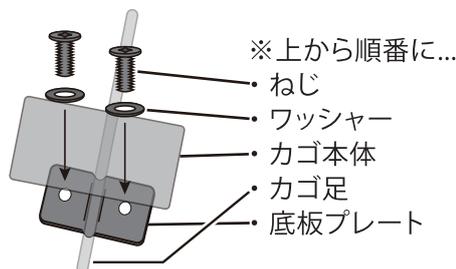
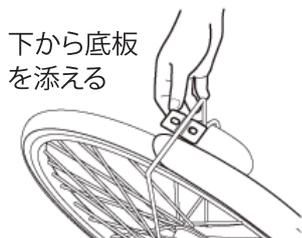
※機種により付属品が異なる場合があります。

※カゴ取り付け部品がはじめから自転車に仮止めされているものもあります。

※黒の保護キャップが付属されている場合は、カゴ取り付け後に各ねじの先端に装着してください。

### ● カゴ下側(底面)の取り付け

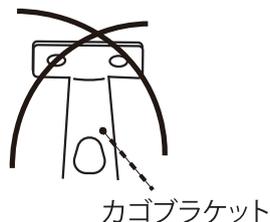
底板プレートをカゴ足の下側に添えて、カゴと底板でカゴ足をはさみ、ワッシャーを通したねじをカゴ内側から底板プレートのねじ穴に差し込み仮止めします。カゴ足の位置は手で力を加えて調整してください。



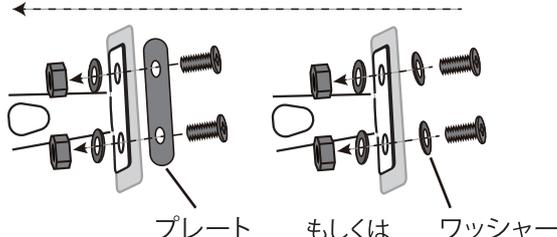
### ● カゴ側面(ハンドル側)の取り付け

ハンドルから伸びているワイヤー類をカゴブラケットの上部で交差させて、前カゴを取り付けます。ワッシャーを通したねじをカゴの内側からブラケットの穴に通し、反対側からワッシャー・ナットを付けて仮止めします。カゴブラケットが曲がっている場合は、当て布をかぶせたハンマー等で叩いて調整してください。

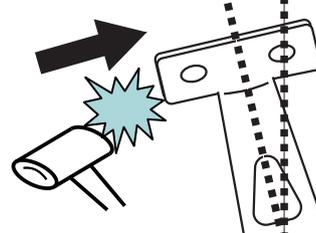
ブラケットの上でワイヤーを交差させる



ナット / ワッシャー / ブラケット / カゴ / プレート / ねじ (ワッシャー)



叩いて位置調整



### ● カゴの位置を調整して本締め

仮止め後、カゴが水平になるようにカゴの角度とカゴ足の位置を調整して本締めを行います。外側からスパナ等でナットを固定し、内側からドライバーでねじを締めて取り付け完了です。

黒色のキャップが付属されている場合は、本締めした後に、ねじ・ナットの先端に装着してください。

キャップは必ずしも装着するものではありません。





必ずお読みになってから、ご使用ください

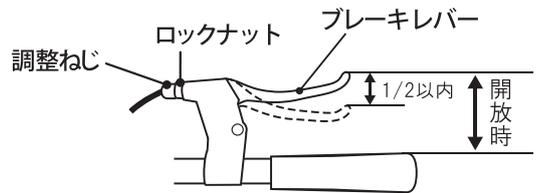
## ブレーキの調整

ブレーキや変速ギアについて、最終調整は万全におこなっておりますが、初期において調整が必要な場合がございます。調整は専門の知識と技術が必要な難しい作業になります。お手数ですがお近くの自転車店での調整をお願いします。お客様で調整をされる場合は下記をご参考ください。(あくまでご参考です。自転車店での調整をお勧めします)調整は定期的をお願いします。

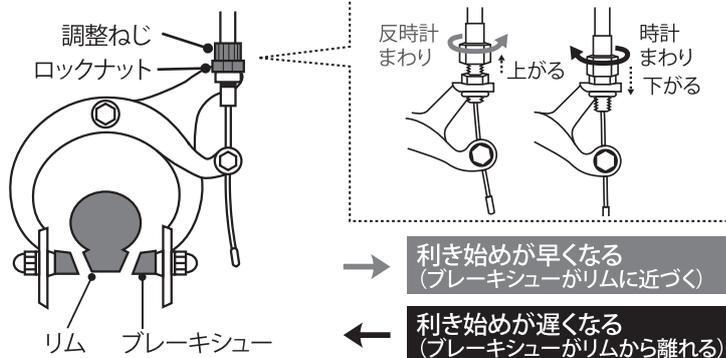
ブレーキは、安全に乗るためにいちばん大切なものです。自転車を長期間使用していると、ブレーキワイヤーの伸びなどによりブレーキの利きが悪くなります。いつも最高の性能が発揮できるように、乗車前には必ず点検してください。

### ■ブレーキワイヤーの調整 (ブレーキの利きが悪くなった場合)

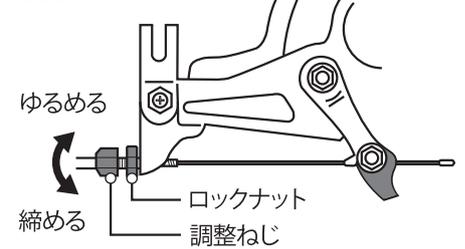
- ① ロックナットをゆるめます。
- ② 調整ねじを回して調整します。ブレーキレバーを操作し、レバーの握り込みが1/2以内でブレーキが利くようにしてください。
- ③ 調整後はロックナットのみをしっかり締めてください。



前ブレーキ リムとブレーキシューの隙間が2mmくらいが適当です。



後ろブレーキ



調整を行ってもブレーキの利きが悪い場合は、お近くの自転車店で調整をしてください。

### ■Vブレーキについて (対応機種のみ)

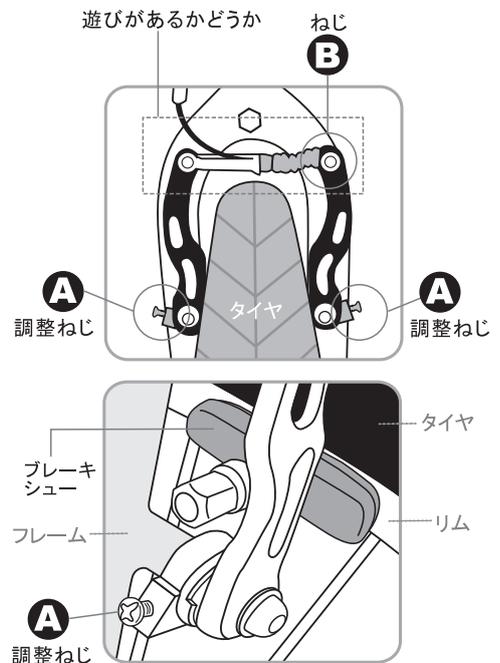
#### ① ワイヤー調整 (使用する工具は付属の簡易スパナです)

ワイヤーを留めているねじ「B」を簡易スパナでゆるめ、ワイヤーの張りを調整してから (適度な遊びを作って) ねじ「B」を締めます。

#### ② バランス調整 (使用する工具はプラスドライバーです)

左右どちらかのブレーキシューがリムに接触している場合 (片当たり) は、右図の調整ねじ「A」によって調整することができます。左右の「A」のねじを少しずつ回して調整を進め、左右のアームの動きを均等にしてください。

- タイヤを挟んでいるブレーキシューがリムに接触している場合 調整ねじ「A」を締めると (右回し) ブレーキシューはリムから離れます。
- ブレーキシューをリムへ近づける場合 調整ねじ「A」をゆるめると (左回し) ブレーキシューはリムに近づきます。



調整後は左右のブレーキシューが対称に動いているか確認し、ブレーキがしっかり利くことを確認してから乗車してください。

## ライトの装備、点灯の確認

機種によってはライトが標準装備されていないことがあります。夕方以降・夜間・トンネルなど暗い環境でご使用される場合は、あらかじめお客様ご自身でライトをご用意ください。

- ・ 汚れ、破損がないか、ライトが点灯するか点検してください。
- ・ 自転車の前方10m先を照らすようにライトの角度を調整してください。

# 各部の取扱いと組立・調整

## 変速ギアの取扱いと調整

※ここでは、一般的なリアディレーラーについて説明しています。

**注意** 変速ギアは、走行条件の変化に応じてギヤ比を変えることで、ペダリングの速さ、踏力を一定にして疲れを軽減する装置です。変速レバーを作動させ、ディレーラー(変速機)を操作し、チェーンを掛け変えてギヤ比を変えます。

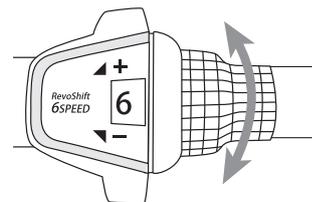
### ■操作上の注意

- ギアチェンジは、必ず座ってペダルを前にこいでいる状態(走行中)で行ってください。停車時やペダルの逆回転時にギアチェンジすると、チェーンが外れる恐れがあり、またギアチェンジが正常にできず故障の原因になる場合があります。
- ギアチェンジの際は、前方の安全を第一に走行し、変速レバーは見ずに操作してください。
- 上り坂を走行中、立ちこぎ中、過度なスピードでの高→低のチェンジは、ペダルが空回りして大変危険です。
- ペダルを強く踏みながらチェンジしたり、一気に2段以上チェンジすると、チェーンやギアの劣化が早くなります。
- チェーンがよく外れたり円滑にチェンジできないときは、調整が必要です。(ディレーラーは微妙な調整が必要です。)また、むやみに調整ねじを回すとさらに調子が悪くなる恐れがありますので、必ず自転車店に依頼してください。

### ■変速レバーの使い方

道路状況やスピードの上げ下げなど、走りやすいシフトに合わせて走行してください。変速レバーを回して、1速～6速までの調整が可能です。

- ・数字が小さいほどギア(ペダル)は「軽く」なりますが、速度は「遅く」なります。
- ・数字が大きいほどギア(ペダル)は「重く」なりますが、速度は「速く」なります。



1 2 3 4 5 6 変速レバーの目盛り  
減速(軽い) ← → 増速(重い)

※裾の長いスカートやマフラーなどは、車輪やチェーンに巻き込まれる恐れがあります。服装に注意してください。裾の広いズボンも、ズボンバンドを使用して巻き込みを防止しましょう。

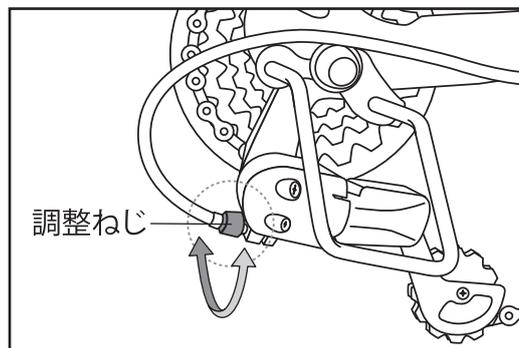
製造工場にて検査および各部調整を行い梱包し、お客様のもとにお届けしておりますが、運送時の振動によって再調整が必要になる場合があります。また、ご使用後もなくでも初期伸びによって再調整が必要になる場合があります。これらは製品特性上に発生し得る現象であり、製品不良には該当しないものとなります。スムーズに変速しない、ペダルに引っかかりを感じる、異音がするなどの異常を感じた場合は、ご購入店舗またはお近くの自転車店にお持ち込みのうえ再調整をしてください。(お客様ご負担)

### ■お客様で調整をされる場合(通常通りレバーを操作してもギアが切替わらない場合)

- ① まずはスタンドを立ててロックします。
- ② 後輪が浮き上がるように壁などに立て掛け、ペダルを手でこげる(回せる)ようにします。
- ③ 変速機後方の、ワイヤーがつながった調整ねじを少しずつ回して調整を行います。(ペダルを回転させながら調整してください。)

●ローギア(1段)側に切り替わりにくい場合  
→ 調整ねじを反時計回りに回してください。

●ハイギア(6段)側に切り替わりにくい場合  
→ 調整ねじを時計回りに回してください。



後変速機(リアディレーラー)

※回転部に手を巻き込むと大怪我をする恐れがあり大変危険ですので、十分に注意しながら行ってください。  
※上図の調整ねじ以外のねじは、専門の知識と技術が必要となりますので、むやみに扱わないでください。

**強制** ギアの切替ができない場合は、お近くの自転車店で調整をしてください。



# 乗る前の点検

点検ができないお子様の為に、必ず保護者が行ってください。

強制

## ■初期点検・定期点検について

- 購入後2ヶ月以内は、ねじなどのなじみの影響でゆるみが生じやすいです。必ず2ヶ月以内に初期点検を受けてください。初期点検のあとも異常を感じたときは、直ちに使用を中止して点検を受けてください。
- 必ず1年ごとに定期点検を受けてください。  
※点検費用はお客様のご負担となります。

## ■乗る前の点検について

安全にご乗車いただくために、乗る前に必ず点検を実施してください。点検・調整をしたあとは、必ずテスト走行をしてください。異常があったときや、わからない点がある場合は、乗る前にカスタマーサービスまでご相談ください。部品に異常や変形が確認されたら、そのまま乗車せず、直ちに部品の交換・修理を受けてください。そのまま乗車を続けると、思わぬけがや事故につながる危険性があります。

## ■各部品の交換時期

- ブレーキワイヤーは、異常がなくても2年に1回は交換してください。
- タイヤは接地面のトレッド溝が一部でもなくなる前に交換してください。
- ブレーキシューは制動面の溝が残り1mmになる前に交換してください。



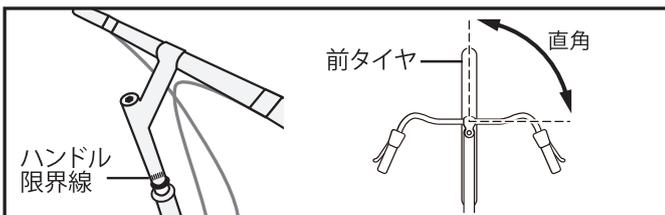
フレームや部品類の変形や曲がりや直しての再利用は絶対にしないでください。

## 点検の項目

### ■ハンドル

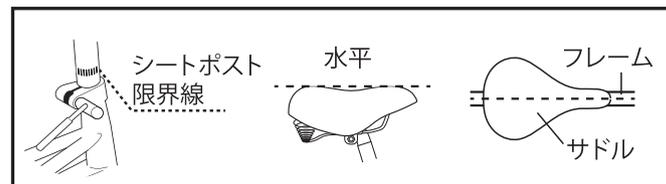
- ハンドルの高さ、角度が適正か確認してください。
- 限界線が隠れていることを確認してください。
- ハンドルがタイヤに対して90度(直角)になっているか確認してください。
- ガタつきがないこと、しっかり固定されていることを確認してください。

※ハンドルの点検・調整はとても重要です。異常を感じた場合は直ちに使用を中止し、お近くの自転車店等で点検を受けてください。



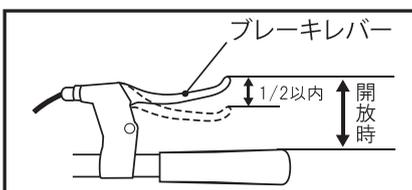
### ■サドル

- サドルの高さが適正か確認してください。
- 限界線が隠れていることを確認してください。
- サドル上面が地面に対して水平、向きがフレームと一致していることを確認してください。
- ガタつきがないこと、しっかり固定されていることを確認してください。



### ■ブレーキ

- 左右ブレーキレバーの引きしろを確認してください。  
右ブレーキレバー → 前ブレーキが動作  
左ブレーキレバー → 後ブレーキが動作  
ブレーキレバーを操作し、レバーの握り込みが1/2以内でブレーキが利くことを点検してください。ブレーキレバーを強く握って、レバーとグリップがつく場合は、再調整して遊びを少なくしてください。  
(調整方法:P12)



### ■ジョイント

- ジョイント部が確実に固定されていることを確認してください。※固定がゆるいと乗車中に開いて事故につながる恐れがあります。(組立説明:P7~8)

### ■ライト・リフレクター

- 汚れや破損がないか、またライトが点灯するか確認してください。機種によってはライトが標準装備されていないことがあります。夕方以降・夜間・暗い環境で使用される場合は、あらかじめお客様ご自身でライトをご用意ください。※ライトは自転車の前方約10m先を照らすように角度を調整してください。

### ■前後車輪

- 前後のタイヤをゆすり、ガタつきがないか確認してください。走行中の振動によって固定がゆるむことがあります。必ず定期的に点検を行ってください。



# 乗る前の点検

強制

点検ができないお子様の為に、必ず保護者が行ってください。

## ■ペダル

- ペダルをゆすりガタつきがないか、スムーズに回転するか、異音がないか確認してください。

## ■ベル

- 破損していないか、よく音が鳴るか確認してください。

## ■タイヤ

- タイヤの空気圧を確認してください。使用してなくても空気は自然と抜けてしまいます。空気圧が少ないとチューブの劣化、パンク、リムの損傷の原因になります。空気圧は常に適正にしてください。タイヤの適正空気圧はタイヤ側面に表示されています。

★表示例：『 ○○○ kPa 、 ○○ kgf/cm 、 ○○PSI 』

- タイヤの表面が擦り減っていないか、釘などがささっていないか確認してください。擦り減りやひび割れがひどい場合は、パンクしやすい状態です。タイヤ、チューブを交換してください。

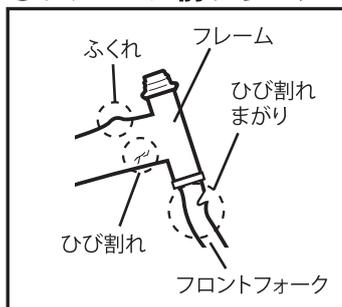
## ■サスペンション

- スムーズに稼働するか、異音・破損がないか確認してください。調整は自転車店にご相談ください。

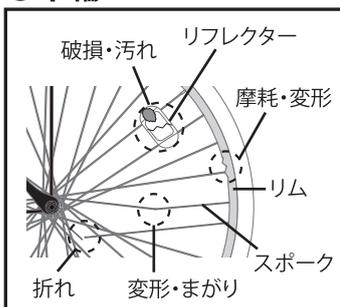
## ■フレーム・部品

- フレームや部品に変形やひび割れなどがいないか確認してください。変形やひび割れなどの異常を見つけたら直ちに使用を中止してください。自転車が転倒したときなど、強い衝撃が加わったときは必ず点検してください。異常があるまま使用されると事故やけがにつながる恐れがあるので、必ず点検・修理を行ってください。

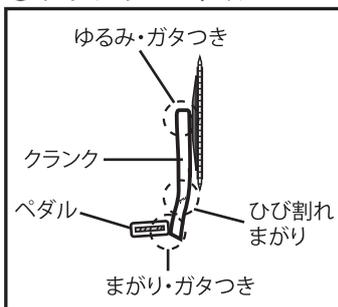
### ●フレーム・前フォーク



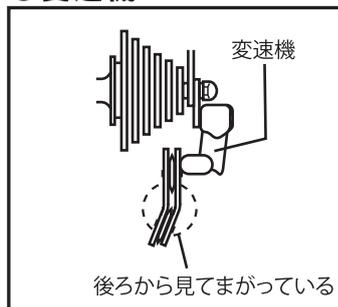
### ●車輪



### ●クランク・ペダル



### ●変速機



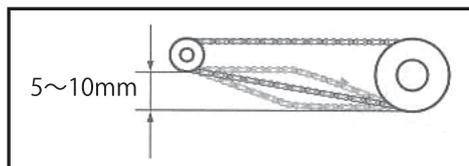
## ■乗る時の服装

裾の長いスカートやマフラーなどは車輪やチェーンに巻き込まれる恐れがあります。また、かかとの高い靴、サンダル、ゲタなどはすべりやすく大変危険です。動きやすい服装で乗車してください。裾の広いズボンにはズボンバンドを使用して巻き込みを防止してください。安全確保のためにヘルメットを必ず着用してください。

## ■チェーン

- たるみすぎていないか、錆びていないか、油は十分かを確認してください。チェーンの張り具合は、チェーンの中央部を持って上下に動かし、その差が5～10mmあれば適正です(変速ギア付きを除く)。

※チェーンは張りすぎていても破損につながる可能性があり、ゆるすぎても走行中にチェーンが脱落する原因となります。とくに新品の自転車はチェーンが伸びやすいため、ご使用開始から2ヶ月を目安に点検調整を行ってください。



## ■リム

- リムの表面が摩耗していないか確認してください。著しく摩耗していると強度が低下しパンクの原因になります。



## 注油箇所

※図は基本的な点検項目です。実際の商品とは異なる場合があります。

注油する箇所を誤ると制動が悪くなるなど機能に影響するので注意してください。

また、フレームヘッド回転部・ギアクランク回転中心軸・ハブ・ペダルなどの回転部にはグリスがつまっているので注油は必要ありません。自転車店で定期点検のときにグリスアップしてください。

### ●注油について

月に1度は注油しましょう。

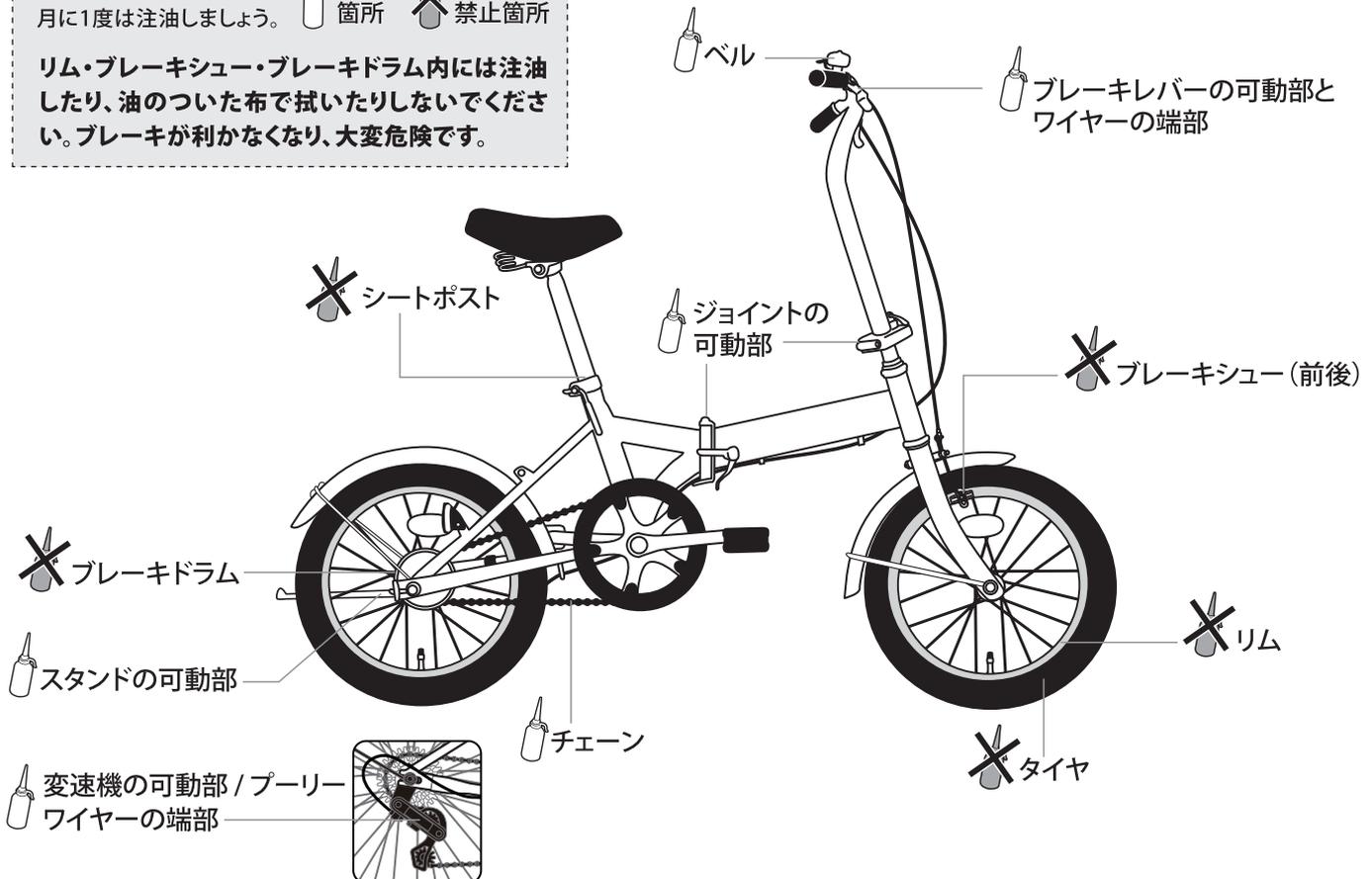


注油  
箇所



注油  
禁止箇所

リム・ブレーキシュー・ブレーキドラム内には注油したり、油のついた布で拭いたりしないでください。ブレーキが利かなくなり、大変危険です。

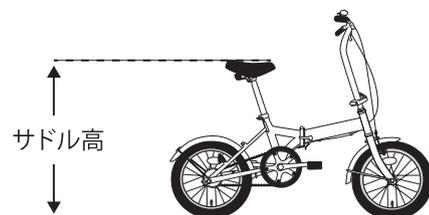


## ■日常のお手入れ

大切な自転車をいつまでも長持ちさせ、快適にお乗りいただくために定期的にお手入れをしてください。とくに雨の後の掃除は念入りに行いましょう。

## サドル高調整の目安

サドルにまたがりペダルに足を乗せたとき、ひざにやや余裕ができるようにサドルの高さを調整します。小柄な方や初心者の方は、サドルをいちばん低い位置に下げた状態で、両足のかかとまでべったり地面につくことが大切です。



身長 (cm)	120	125	130	135	140	145	150	155	160	165	170	175	180
サドル高 (cm)	67	69	71	73	75	77	79	81	83	85	87	89	91

※この場合の「サドル高」は、地上からサドル上部までの高さを意味します。

上記のサイズは、自社基準にて標準体格での数値となります。目安としてご参考ください。

※当社の自転車は、乗車体重を65kgで基本設定しています。65kg以上の人が乗車するとすぐに壊れてしまうというものではありませんが、著しくオーバーした体重の方が常用される場合には、車体や各部品などの消耗度合い、劣化度合いが大きく早くなることをご理解ください。

# 交通ルールについて



自転車は道路交通法上、軽車両として扱われます。違反すると罰則を受けることがあります。違反行為を2回以上繰り返すと、自転車運転者講習を受講する必要があります。受講命令に従わなかった場合は罰金が科せられます。道路標識や信号などを守ることはもちろんですが、お互いに迷惑のかからないよう交通ルールを必ず守り、正しく安全に乗りましょう。

## ■発進するとき

見通しのいい場所で、周囲の安全を確認してから発進しましょう。  
信号のある交差点では、青信号になってから安全確認をして発進してください。

## ■走行する場所

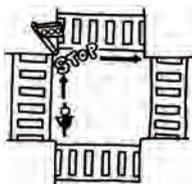
- 車道は原則として左側を走行してください。道路交通法上、自転車は軽車両と位置付けられているため、歩道と車道の区別がある道路では車道走行が原則です。車道を走行する場合は、道路の中央から左側部分の左端に寄って走行しましょう。
- 自転車道が設けられている道路では、やむを得ない場合を除き自転車道を走行します。自転車道は相互通行可能ですが、自転車道の左側を走行しましょう。
- 歩道は例外です。歩行者優先です。道路標識などにより、歩道を通行できる場合は、車道寄りを徐行しなければいけません。歩行者の通行を妨げる時は一時停止しましょう。
- 標識に従って走行しましょう。

### 標識の一例

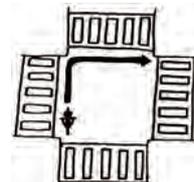
	<p><b>歩行者専用</b></p> <p>自転車に乗車して通行することは原則できません。自転車から降りて通行しましょう。</p>		<p><b>自転車及び歩行者専用</b></p> <p>自転車と歩行者が通行できる道路です。歩行者を優先し、安全に走行しましょう。</p>
	<p><b>自転車専用</b></p> <p>自転車が通行できる道路です。周囲の状況を常に確認しながら、安全に走行しましょう。</p>		<p><b>普通自転車専用通行帯</b></p> <p>自転車の通行のために車道の左端に設けられる通行帯です。原則としてここを通行しなければいけません。</p>
	<p><b>自動車専用</b></p> <p>自動車以外の車両は通行できません。事故につながるので絶対に立ち入らないでください。</p>		<p><b>自転車一方通行</b></p> <p>自転車は矢印の示す方向にのみ通行することができます。反対方向からの通行(逆走)はできません。</p>

## ■交差点の通りかた

- 信号のある交差点では  
正面の信号が青のとき、直進と左折ができます。右折の場合は、交差点の向こうまでまっすぐ進み、一度止まって曲がる方向の信号が青になってから進みます。(二段階右折)



- 信号がない交差点では  
左折するときは後方に注意しながら早めに合図を出して、できるだけ左によって十分スピードを落として曲がりましょう。右折するときはできるだけ左によって交差点の向こう側までまっすぐ進み、左右の安全を確認してから曲がりましょう。



## ■交通標識を守りましょう

自転車は道路交通法によって「軽車両」と位置づけられている車両です。自動車と同様に交通標識を守って走行しましょう。

- 一時停止の標識があるときは必ず一旦停止しましょう。  
狭い道路から大通りに出るとき、横断歩道や踏み切りを渡るとき、歩行者の妨げになるようなときなども必ず一時停止して安全を確かめてから走行しましょう。



- 道路を横断したり交差点を渡る際に、近くに自転車横断帯があるときは、そこを通らなければいけません。

自転車横断帯	横断歩道 自転車横断帯	横断歩道
 自転車横断帯がある場合には、原則として横断歩道ではなく自転車横断帯を通行しなければいけません。	 歩行者は横断歩道を、普通自転車は自転車横断帯を通行しなければいけません。	 横断歩道は歩行者優先であるため、横断歩道を渡る歩行者がいる場合は、歩行者が渡りきるまで停止して待たなければいけません。

横断歩道では、一度止まって歩行者を優先させてください。また、自転車が通行可能な歩道を走行するときは徐行し、歩行者の妨げにならないよう気を配りましょう。

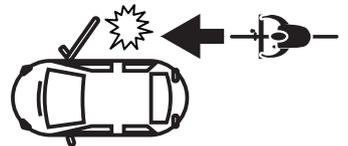
## ■周囲の安全確認

交差点は事故が起こりやすいところです。周囲を十分に確認して安全を確保してから横断しましょう。車の左折時に巻き込まれる事故が多発しています。車からの死角は数多くあります。危険を感じたときは、無理しないことがとても重要です。

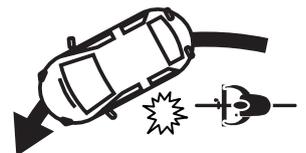
- 子どもの飛び出しに注意しましょう。  
右に記す道路標識が表示されている近くには学校、幼稚園、保育園等があります。徐行運転をして、子どもの飛び出しなどに気を付けましょう。



- 停止中の車に注意しましょう。  
車のドアが急に開き衝突する危険性があります。スピードを落として通過しましょう。また、後方から接近する車にも注意しましょう。



- 左折する車に注意しましょう。  
左折する車に巻き込まれる事故が多発しています。周囲の車の動きに注意しましょう。車の死角に入ると大変危険です。十分に距離をとって走行しましょう。



## ■駐輪について

- 駐輪するときは他の人の迷惑にならないように、決められた場所にとめましょう。
- 自転車から離れるときは盗難防止のために必ずカギをかけましょう。盗難防止には二重施錠が有効的です。
- 自転車の放置は禁止です。自転車の放置は地域環境の悪化になります。自転車との接触事故等の危険性もあり大変危険です。他の人の迷惑にならないように、決められた場所にとめましょう。

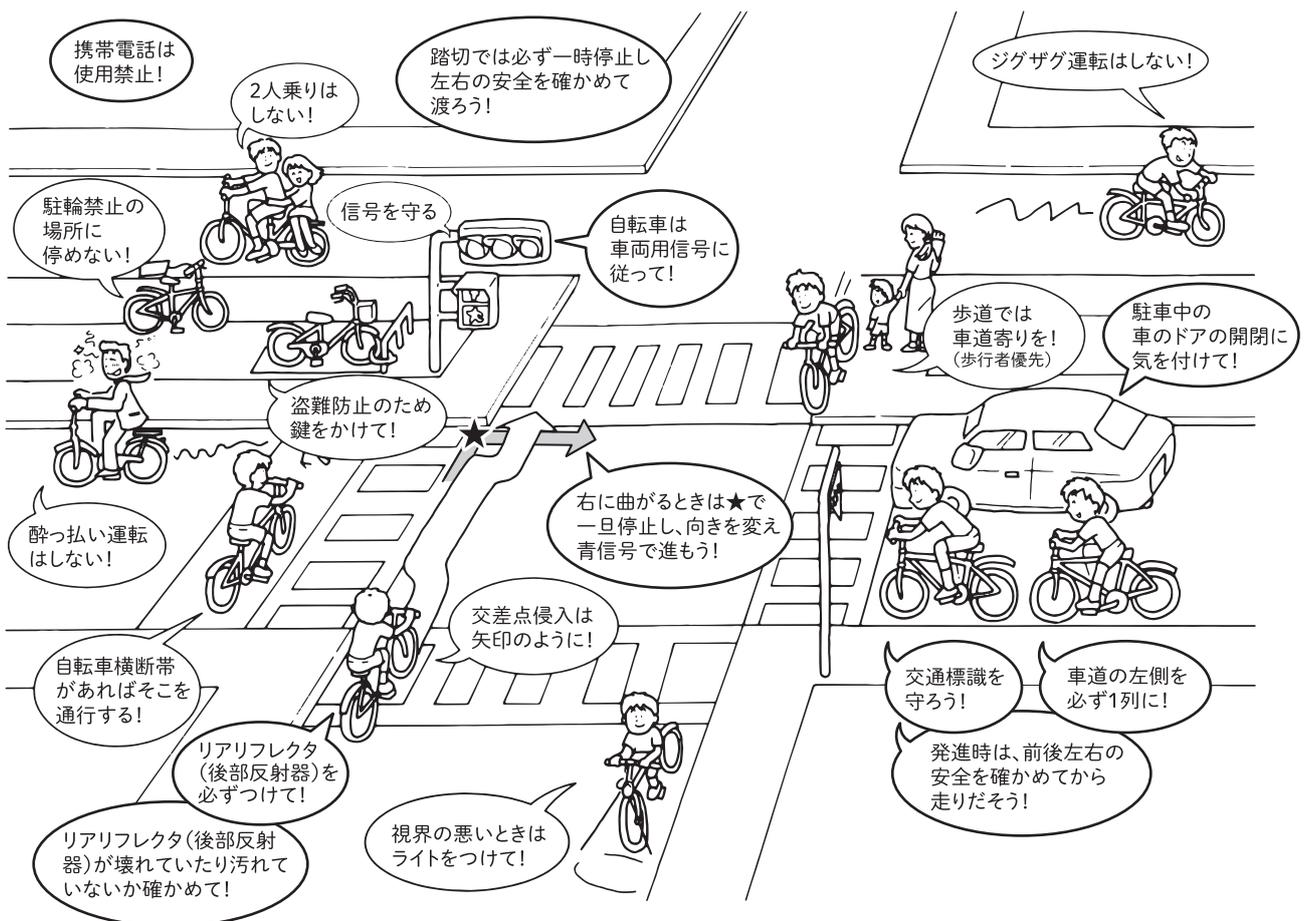
# 交通ルールについて

## ■危険行為はやめましょう

- 酒気帯び運転
- ながら運転
- イヤフォン等を装着して走行
- 傘さし運転
- 夜間の無灯火走行
- 信号無視
- 逆走
- 指定場所の一時不停止
- 遮断踏切への侵入
- 通行禁止違反
- 歩道における車両義務違反(徐行違反)
- 歩道通行時の通行方法違反
- 通行区分違反
- 路側帯通行時の歩行者の通行妨害
- 交差点安全進行義務違反
- 交差点優先者妨害等
- 環状交差点安全進行義務違反等
- 制御装置(ブレーキ)不良自転車運転
- 安全運転義務違反
- 妨害運転

上記は一例です。違反行為をすると、自転車運転者講習を受講する必要があります。受講命令に従わなかった場合は罰金が科せられます。道路標識や信号などを守ることはもちろんですが、お互いに迷惑のかからないよう交通ルールを必ず守り、安全に正しく乗りましょう。

## ■交通ルールのまとめ



## ■万一の事故への備え

- 安全のために、ヘルメットを着用しましょう。
- 対人・対物賠償保険に加入することをおすすめします。  
自転車による事故でも、自転車は道路交通法上で軽車両と位置づけられているため賠償額の計算方法は自動車による事故と変わりません。万一に備えて保険に加入しましょう。  
保険への加入を義務付けている自治体が増えています。ご使用される自治体にご確認ください。

# こんな時どうする？

## ■ 転倒したとき

転倒、衝突したら、まず何より道路左側によって自動車を避けます。身体に外傷がある場合は、手当てを終えたあと、自転車の状態を調べてください。異常がある場合（フレームの変形やひび割れ、変速機、ブレーキレバー、ペダルは正常か等）は無理に乗りません。必ずお近くの自転車店等で点検・調整を受けてください。

## ■ パンクしたら（空気タイヤの場合）

自転車店で修理してください。パンクしたまま乗りつづけると、タイヤチューブを破損させます。必ず降りて押ししてください。

※ご購入後の日数、走行距離に関わらず、パンクについては保証対象外です。ご了承ください。

＜パンクの原因は＞

- ・ 釘、ガラス破片などを踏んだとき。
- ・ 道路の穴に落ちたり、縁石に乗り上げたとき。
- ・ 空気圧が低い際、タイヤではなくリムが地面についたとき。

## ■ 交通事故

万一、交通事故を起こした場合は、相手が歩行者・自転車・自動車を問わず応急処置のあと速やかに警察に報告してください。事故処理など一切は警察の指示にしたがってください。

## ■ ブレーキの故障や ブレーキワイヤーが切れたとき

すぐにお近くの自転車店等で修理してください。ブレーキが利かない状態での走行は大変危険です。必ず降りて押ししてください。

## ■ 異常を感じたとき

日常点検および走行中に異常を感じたときは、すみやかに自転車店で点検・整備を受けてください。またはカスタマーサービスにご相談ください。

## ■ 消耗品・部品が必要なとき

お近くの自転車店でご購入いただくか、またはカスタマーサービスにご相談ください。

# 防犯登録について

## ■ 防犯登録とは

防犯登録は、防犯協会連合会が公安委員会の指定を受け、自転車の盗難防止と被害の早期回復を目的に警察、地区防犯協会と自転車販売店（防犯登録店）のみなさまの協力のもとに実施しているものです。防犯登録は法律で義務付けられています。

## ■ 登録の手続き

各都道府県の防犯登録加盟店（自転車店）、または最寄の交番および防犯協会（警察署の中にある）で防犯登録をすることができます。（有料）

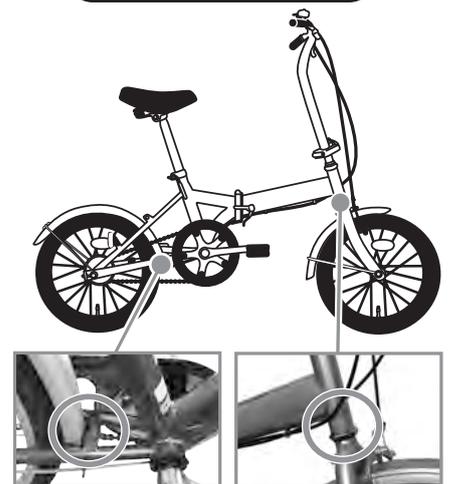
※地域によっては、上記箇所登録できない場合もあります。

詳しくは地域の防犯登録協会や警察署までお問い合わせください。

## ■ 登録の際に必要なもの

- 自転車本体（車体番号確認のため）
- 品質保証書（取扱説明書・裏面の品質保証書に必要事項をご記入ください）  
※車体番号の刻印位置は、右の図をご参照ください。
- お客様の身分証明になるもの（運転免許証・健康保険証・学生証など）
- 販売店の日付が入った伝票、または運送会社の送り状（通信販売で購入 / 景品・記念品で受け取られた場合）

車体番号の刻印位置



## ■ 日常の保管

- 雨のかからない乾燥した場所に保管してください。雨のかかる場所では市販のサイクルカバーを使用してください。
- ※長期間保管した後、再使用される場合は、販売店で点検整備のうえご使用ください。（有料）

## ■ 廃棄時のお願い

自転車本体、部品を廃棄する際は、各自治体の指示内容に従って処理してください。

# 点検・調整チェックリスト

- ・ご購入後2ヶ月以内の初期点検、その後1年おきの定期点検を必ず行ってください。
- ・安全にご使用いただくために、必ず継続して点検を行ってください。
- ・定期点検以外でも異音や異常を感じたときはすみやかに点検を行ってください。
- ・点検で不備があれば必ず調整・修理等を行ってください。不備があるまま使用しないでください。

○:異常なし      ×:異常あり      ー:該当なし

点検内容		2ヶ月	1年目	2年目	3年目	4年目
フレーム 前フォーク	変形、破損、ひび割れはないか					
	ヘッド、ジョイント部にガタつきはないか					
ハンドル ステム	限界線は隠れているか、固定は確実か、高さ・角度は適正か					
	変形、破損、ひび割れはないか					
泥よけ	変形、破損はないか、確実に固定されているか					
車輪	ガタつきはないか、確実に固定されているか、スムーズに回転するか					
タイヤ	摩耗、ひび割れはないか、空気圧は適正か					
リム	変形、歪み、摩耗はないか					
スポーク	ゆるみ、曲がり、破損はないか					
ギアクランク	ひび割れ、曲がり、ガタつきはないか、確実に固定されているか					
ペダル	固定は確実か、取り付け部にバリはないか					
	変形、破損、ガタつきはないか、スムーズに回転するか					
ブレーキ	利き具合は適正か					
	ワイヤーに錆やほつれはないか、ブレーキシューに摩耗はないか					
変速機	変形、曲がりはないか、正常に動作するか					
チェーン	錆、破損、たるみはないか					
サドル	限界線は隠れているか、高さは身長に対して適正か					
	破損、ガタつきはないか、固定は確実か					
ライト	装備されているか、点灯するか、明るさは適正か					
リフレクター	汚れ、ガタつき、破損はないか					
スタンド	ガタつき、破損はないか、正常に動作するか					
ベル	破損はないか、正常に動作するか、よく鳴るか					
その他	各部のねじにゆるみはないか					
実施日		年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日

# 品質保証規定

## 1. 保証の注意事項

当社の製品は一部お客様にて組み立てが必要となります。組み立てや調整に必要な工具は、お客様にてご用意が必要なものもあります。

組み立てに要する手間や費用等につきまして、当社としてこれらを負担することはできません。

商品の不良以外(使用方法に起因する不具合や消耗品)は保証対象外となります。

お買い上げ店または当社にご連絡なしに、かつ同意なしに修理された修理代金は保証できない場合があります。

万一お預かりした製品に不具合が見当たらなかった場合は、送料をご負担いただく場合があります。

出張修理は行っておりません。

製品改良のため予告なく色・デザイン・部品・機能などの仕様を変更することがあります。

この保証書は盗難保険ではありません。

お届け時の箱は、保証をお受けになる際に必要となる場合があります。初期不良が無いことをご確認いただいた後に処分してください。保証をお受けになる際に箱をすでに処分されている場合は、有償になる場合があります。

修理で自転車をお預かりする場合の代車はご用意しておりません。

保証修理に関するお問い合わせは、お買い上げ店または当社カスタマーサービスにご相談ください。

## 2. 保証修理を受けるための手続き及び条件

保証修理をお受けになる場合は、自転車と保証書をご用意いただき、お買い上げ店または当社カスタマーサービスへ保証修理をお申し付けください。(保証修理は運送業者による引取り・配送でご対応させていただく場合もございます。)保証書の提示がないときは保証修理をお受けできません。

保証期間はお買い上げ日より1年間。ただし、消耗部品は対象外となります。

保証書の字句等を使用者が書き換えた場合は無効となります。

取扱説明書の注意書きに従ってご使用されている状態で故障した場合に保証修理をさせていただきます。

ご贈答、ご転居および他に譲渡する場合は、お買い上げ店または当社カスタマーサービスにご相談ください。

お買い上げの日から2ヶ月以内に点検を実施してください。点検・調整は有料です。(尚、当社カスタマーサービスで点検をお受けになる場合は、別途配送料が必要になります。)

この保証書は日本国内で使用される自転車で、車体番号の刻印があるものに適用されます。海外に持ち出す場合は、その時点で保証の打ち切りとなります。(This warranty is valid only for JAPAN.)

## 3. 保証できない事項

(A)次に示すものに起因すると判断される故障は保証対象外です。

取扱説明書に従わない使用、取扱不注意(乗車定員、最大積載量などのオーバーならびに警告・注意・禁止・強制等の厳守事項の無視など)による場合。

衝突、転倒、道路の段差等への乗り上げ、または溝などに落ちて生じたもの。

保守整備の不備、不当な修理により生じたもの。

法令の違反行為により生じたもの(二人乗り、最大積載量オーバー、夜間無灯火等)。

当社が指定する点検調整を実施しなかった場合。

構造、機能を改造または変更したために生じたもの(当社で設定した部品以外を使用した場合)。

レース、ラリー、トライアル、練習等での酷使および、一般に自転車が走行しない場所での走行(道のない山岳ツーリング、土手の傾斜面等)により生じたもの。

レンタルサイクルなど不特定多数で使用された場合。

再販(中古品)で購入された場合、および譲渡されたもの。

地震・落雷・火災・水害・公害・その他人災・天災・地変によって生じたもの。

手入れ不十分。保管場所の不備および時の経過により生じた不具合(メッキ・塗装・カラー部品の自然褪色・サビ)、およびプラスチック部品等の自然褪色。

部品の通常の磨耗または疲労と認められたもの(タイヤ・チューブ・ブレーキ用ゴム等のゴム類)。

釘・ピン・ガラス・切削くず・鋭利な石ころ・リム打ち・いたずら等で生じるパンク。

一般に機能上問題のない感覚的現象(音・振動)。

ペダルの取り付け不備による故障。

使用中に発生した塗装傷・フレームなどの変形。

(B)次に示すものの費用はお客様のご負担となります。

保証対象外部品、およびその交換費用(ブレーキシュー、ワイヤー、タイヤ等の磨耗による交換等)。

点検(定期点検を含む)整備、清掃等の費用。

保証書に示す条件以外の費用。

製品の故障に起因する付随的費用(製品を持ち込むために要した費用、修理期間中における代品費用等)。

# 品質保証規定 (続き)

(C)保証修理対象外部品について(次の交換修理はご使用者負担)

タイヤ	ベアリング	ドレスガード等付属品	シフトワイヤー	カギ
チューブ	グリップ	クランク	ワイヤー取付金具	乾電池
リム	フラップ	スプロケット	コード類	電球
スポーク	カゴ	ペダル	ダイナモゴムローラー	工具
ニップル	バッグ	リフレクター類	荷台	小ねじ、ナット類
ブレーキシュー	バルブセット	ハブキャップ	チェーン	スプリング
泥よけ	サドル	ベル	チェーンカバー	ゴムおよび樹脂製部品
ハブ軸	サドルポスト	ブレーキワイヤー	スタンド	磨耗品および疲労品 など

## 4. 返品について

お客様のご都合による返品はお受けすることができません。(サイズが合わない、イメージと違う、その他当社がお客様都合と判断した場合)

返品、返金については当社と直接の売買取引がないお客様から当社で直接お受けすることができません。返品、返金に関してはお買い上げ店にご相談ください。

## 5. 保証機能部品について

保証期間経過後でも、性能を維持するための保証機能部品が必要な際は、お買い上げ店または当社にご相談ください。生産中止になった場合は代替品での対応になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

## 品質保証書

- 保証期間は、お買い上げ日より1年間となります。(ただし保証規定による)
- 初期不良の場合は、7日間以内にご連絡ください。

お買い上げ年月日	年	月	日	ご購入先
お名前				電話番号 ( )
ご住所 〒				
※商品名や型式名の記入は、自転車本体に貼付してあるシール、またはお送りした箱の側面の記載をご確認ください。車体番号の刻印位置はP20をご参照ください。				
商品名	型式名		車体番号	
<b>■自転車について</b> この自転車は、当社の製品規格に基づき厳重な品質管理と検査のもとに製造されたものです。お客様の通常の使用または当社の取扱説明書に従って使用された状態で、万が一品質上の不具合が生じたときは、保証書の内容により、保証修理実施店で無料修理(以下保証修理)をいたします。尚、保証修理は補修または部品の交換によって行い、交換した不具合部品は弊社の所有となります。				
<b>■保証書について</b> この保証書は、本書に明示した期間、条件に基づき保証修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。尚、この保証書は、紛失されても再発行はいたしません。十分に内容を確認したうえ、大切に保管してください。				
<b>■ご購入時の点検</b> 詳細は取扱説明書をご確認ください。また、「点検・調整チェックリスト(P21)」に従い定期点検・整備を行ってください。				
<b>■購入証明書類の保管</b> ご購入お受取りされた際の、レシート・購入証明書・納品書・運送会社の送り状伝票などを保証書と合わせて保管するようお願いいたします。自転車店等で防犯登録をするとき、また保証修理をお受けになるときに必要となります。紛失しないようご注意ください。				

【輸入発売元】  
【保証責任者】



株式会社三ツゴ

〒811-2304

福岡県糟屋郡粕屋町仲原2841-5

TEL: 092-622-0009

FAX: 092-622-0099